

国立国語研究所学術情報リポジトリ

本号の読みどころ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1864

の取り組みをさらに一歩先へと前進させたものとして高く評価できると思います。

(宇佐美 洋)

◆張瑜珊・穆紅・野々口ちとせ「実習体験で教師イメージがどのように変わるか—PAC分析による日本語非母語話者実習生の事例研究—」

多様な言語・文化背景を持った外国人住民と日本人住民が共生する社会を、仮に、多言語多文化共生社会と呼ぶならば、外国人住民に対する日本語教育や学習支援活動の在り方を工夫・発展させることは最も重要な実践課題の一つと考えられます。この課題解決のために、例えば、総務省では、地域における共生施策の推進について検討を進め、2006年3月に、多文化共生推進プログラムを提出しました。地域において取組が必要な「コミュニケーション支援」「生活支援」「多文化共生の地域づくり」「多文化共生の推進体制の整備」の各分野をプログラムとして取りまとめ、先進的な取組事例も含めた具体的な提言を行いました。

この論文は、上記のプログラム推進の鍵となる共生の意識作りやイメージの共有過程に焦点を当てた先駆的論考と考えられます。具体的には、共生社会に対応した日本語教育の根幹となる教育実習の場において、非母語話者実習生が、新規の学習体験をどのように受け止め、いかにして、共生社会における日本語教師の役割や、学習者との学び合いに関する気づきに至るのかについて、個人別態度構造分析（PAC分析）の手法を用いて精緻に分析・追究しています。この変容過程の醍醐味を十分にわかちあっていただけたら幸いです。

(野山 広)